

これからの日常生活で

自動車の価値に気づいてもらうには

梅澤ゼミ 浅田 暢一

〔目的〕

日常生活を送る中で、自動車は生活の必需品となっているだろう。しかしその中でも、首都圏に絞り込むと、自動車利用人数が減少している。それに伴い生産台数も減少している傾向にある。私はそんな現状から、利便性だけでなく自動車に乗ることで自然を感じる、ハンドルを握ることで自由に走れる爽快感、気分転換にもなる自動車の価値に気づいてもらいたいと考えた。

減少している理由としては、首都圏の交通機関が発達し、日常を生活する中では自動車の使用する必要がないことだと思われる。また、自動車の駐車スペースが少ないなど、駐車料金問題も考えられる。

そのこともあり現在では、旅行などの際にはレンタカーを使用することで、自動車を所有するよりも低コストで済ませることができる。今では、カーシェアリングも進んできている現状である。その為に、自動車を所有する必要がないと考える人が多いのではないかと、考えている。

自動車利用率が減少している中で、私はより自動車の素晴らしさを認知してもらう方法を模索する。首都圏でも、東京・神奈川・の2箇所に分けてそれぞれの自動車に対するニーズや考えを調べたいと思う。

〔調査概要〕

・アンケート・リアリング調査

調査目的：東京・神奈川・千葉において、それぞれ自動車に対する考えの調査

〔今後のスケジュール〕

7月：SRC発表

8月：先行研究調査・調査の資料作り

9月：調査実施・集計・分析など

10月 11月：調査のまとめ・結論・今後の課題検討

12月：清書・論文完成

〔参考文献〕

奥山 清行 「伝統の逆襲 日本の技が世界ブランドになる日」 2007.8.5